

能登半島地震における 滋賀JRATの避難所支援活動

滋賀JRAT
滋賀県言語聴覚士会 会長
滋賀県立総合病院リハビリテーション科

言語聴覚士 佐敷俊成

今日話すこと

1. JRATとは
2. 滋賀JRATについて
3. 能登半島地震での避難所支援活動
4. 支援活動から見えてきた課題

JRATとは



一般社団法人
日本災害リハビリテーション支援協会
Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team

- 東日本大震災リハビリテーション支援10団体
(2011年4月13日 設立)
- 大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会(13団体)
(2013年7月26日 名称変更)
- (一社)日本災害リハビリテーション支援協会(13団体)
(2020年4月1日 法人化)

* 全国に地域JRATが設立 滋賀県は**滋賀JRAT**

* 滋賀JRATとしての最初の活動は、2016年の熊本地震

日本災害リハビリテーション支援協会

日本リハビリテーション工学協会

日本義肢装具学会

日本義肢装具士協会

全国地域リハ支援事業連絡協議会
全国地域リハビリテーション研究会

日本訪問リハビリテーション協会

全国デイ・ケア協会

回復期リハビリテーション病棟協会

日本リハビリテーション病院・
施設協会

日本言語聴覚士協会

日本作業療法士協会

日本理学療法士協会

日本リハビリテーション医学会

目的・基本方針

目的

大規模災害時において、継続したリハビリテーション支援により、**生活不活発病等の災害関連死を防ぐ**

大規模災害時において、救急救命に継続したリハビリテーションによる生活支援等により、生活不活発病等の災害関連死を防ぐことを目的とする団体です。

JRAT基本方針

本会は、平時から加盟団体が相互に連携し、各地域において地域住民とともに災害に立ち向かう仕組みづくりに寄与すると同時に、発災時には災害リハビリテーション支援チームを発足させ、被災者・要配慮者の生活不活性発病や災害関連死等の予防に関する適切な対応を可能とすることで被災者が早期に災害を乗り越え、自立生活を再建、復興できることを目指し、活動することを目的とする。



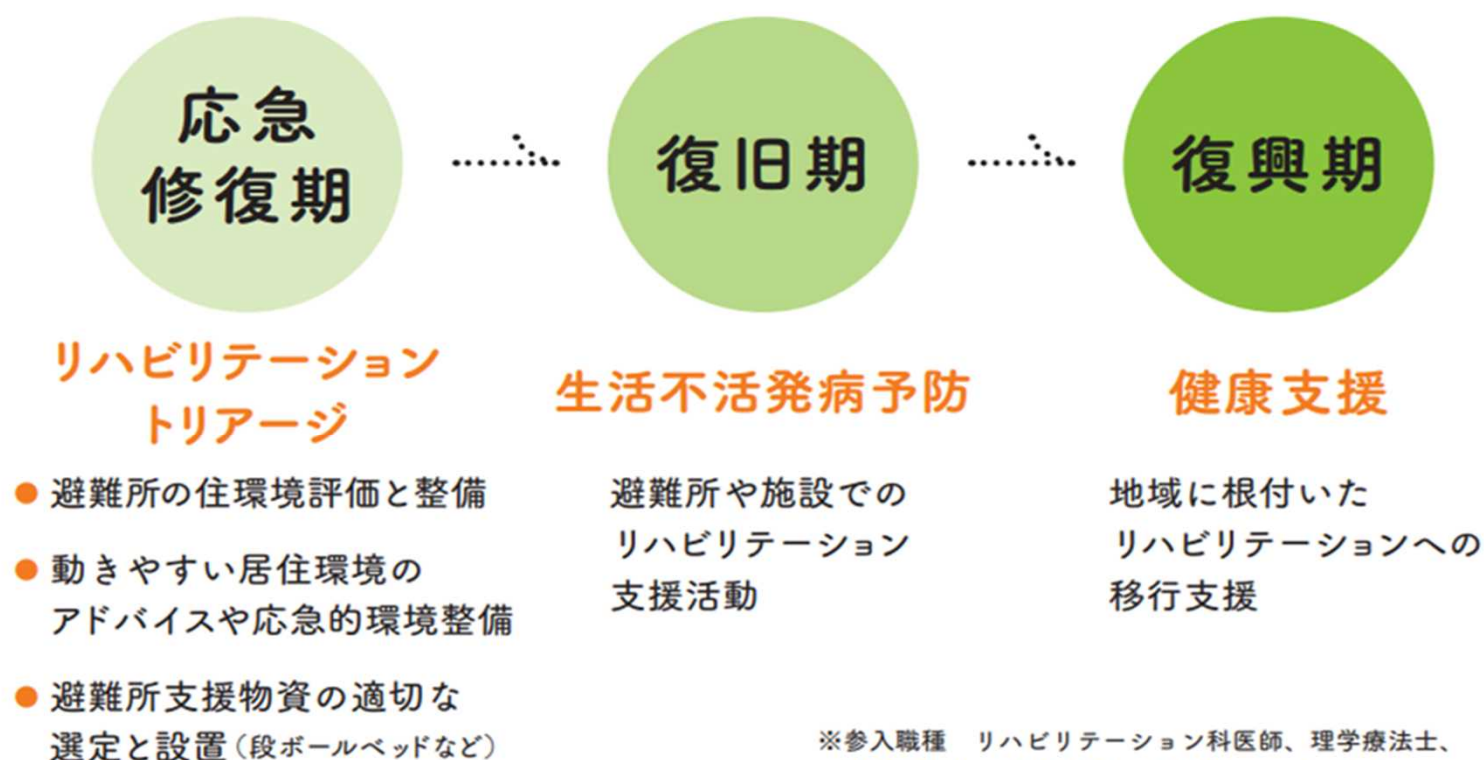
活動指針

- (1) 発災後のリハビリテーション支援活動
- (2) 災害リハビリテーション支援チームの組織化
- (3) 災害リハビリテーション支援活動に資する人材育成
- (4) 災害リハビリテーションに関する普及、啓発
- (5) 関連諸団体との関係構築
- (6) 災害関連諸制度の改善に関わる活動
- (7) その他、災害支援に関する活動



災害のフェーズに合わせた リハビリテーション支援

（災害に関連した身体機能、生活能力の低下予防）



※参入職種 リハビリテーション科医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、ケアマネジャー、義肢装具士、その他医療福祉関連職

活動内容

1

生活不活発とそれに伴う 災害関連疾患の予防と対策

避難所では災害による混乱や不慣れな環境により、生活が不活発になります。そのため、身体や認知機能の低下、呼吸・循環器疾患、深部静脈血栓症（DVT）などの生活不活発病が生じやすくなります。これらを予防するために、発災早期より災害リハビリテーションチームとして関わり、避難された方々の健康的な生活と活動を支えます。



3

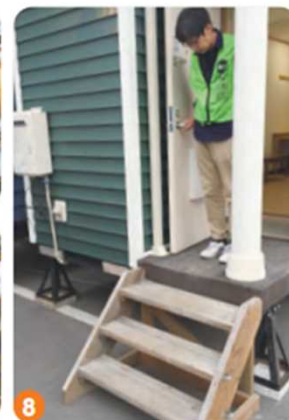
地域や災害支援団体との連携した活動

災害時には様々な団体による支援活動が行われます。私たちは、被災地域の方々、避難所責任者、保健所・保健師、災害（医療）支援チーム、また現地対策本部や医師会、行政等と信頼関係を構築して活動します。被災地域の特性やニーズに沿った支援を心がけ、積極的にコミュニケーションを図っていきます。

2

生活環境の改善や工夫

避難所は高齢者や体に不自由のある方にとって生活や移動が困難な場所となります。単に動きづらだけでなく、転倒などのリスクも生じます。現地の避難所管理者や保健師等と協力して、避難所の評価や整備、福祉用具の手配や活用によって生活環境を改善するよう努めています。



災害リハビリテーションの注意点

被災直後のリハの 5原則	活動内容	注意点
1) 平時に行っていたリハ医療を守ること	環境整備	1～2回の対応で完結させる。
2) 避難所などでの廃用症候群を予防すること	動作および介助方法の提案	1～2回の対応で完結させる。
3) 新たに生じた各種障害に対応すること	歩行補助具および福祉用具の提案・調整	現地資源の営業妨害をしない。 被災者のニーズを正確に収集する。 適切な時期に適切な数を要請する。
4) 異なった生活環境での機能低下に対する支援をすること	生活不活発病予防・仕組みの提案ときっかけ作り	被災者が 自主的に取り組める内容 を提案
5) 生活機能向上のための支援をすること	病院の外来や通所・訪問によるリハ中断者への対応	避難所における 個別的な関わりは最低限に留める 。 現地資源の営業妨害をしない。 病院・施設・福祉避難所もしくは域外への移動の検討
	生活環境変化による心身機能低下への対応	できる限り医師の指示を仰ぐ。 避難所における 個別的な関わりは最低限に留める 。 現地資源の営業妨害をしない。 病院・施設・福祉避難所もしくは域外への移動の検討

今日話すこと

1. JRATとは

2. 滋賀JRATについて

3. 能登半島地震での避難所支援活動

4. 支援活動から見えてきた課題

平時の活動

- 構成員(コアメンバー): Dr.2名、PT(理学療法士)14名、OT(作業療法士)2名
ST(言語聴覚士)4名

- 災害対策研修会 年1回
 - ベーシックな内容: 災害リハとは

- コアメンバー研修会 年1回
 - 一歩踏み込んだ内容の研修
 - REHUG(リハビリテーション本部運営ゲーム)
 - DREAG(災害リハビリテーション支援ゲーム)

- 近畿ブロック会議 年1回
 - 近畿圏での情報共有、連携

- 滋賀JRAT隊員同士の情報共有 都度
- 全国の地域JRATとの情報共有 都度
- 派遣時の防災備品準備
- 滋賀県総合防災訓練 災害対策本部見学

2024年度 滋賀JRAT
災害対策研修会
能登半島地震 支援活動報告



2024年 12月14日 土曜 14:00~16:00
キラリエ草津 1F 多目的室2
(草津市大路2丁目1-35 草津商工会議所)
参加費: 無料 定員: 50名
対象: 理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会の各会員
その他、災害支援に興味がある方
理学療法士会: 登録理学療法士/更新2ポイント
認定/専門理学療法士/更新2ポイント
士会指定事業・地域ケア会議推進リーダー
作業療法士会: 生涯学習ポイント/2ポイント

お申込み: QRコードまたはURLより申してください
<https://forms.gle/LyCAzZHP5ZDnuMi9>

締め切り: 2024年12月7日(土)
懇親会(17時~会場近くで予定)
懇親会締め切り: 2024年11月16日(土)
問合せ先: 滋賀JRAT事務局 shigajratzimu@gmail.com



JRAT本部に登録する隊員種別

Rスタッフ 1名

- RRT (Rapid Response Team: **初動対応**) スタッフ
 - JRAT主催のRRT研修、JRAT指定のEラーニング

Dスタッフ 10名

- 避難所支援活動**スタッフ
 - PFA(心理的応急処置)
 - BHELP(地域保健・福祉の災害対応標準化トレーニング)
 - JRAT指定のEラーニング

Lスタッフ 7名

- JRATロジスティック**スタッフ
 - REHUGもしくはJIMTEFアドバンスコース
 - JRAT指定のEラーニング



今日話すこと

1. JRATとは
2. 滋賀JRATについて
3. 能登半島地震での避難所支援活動
4. 支援活動から見えてきた課題

2024(令和6)年1月1日16:10



16:10 能登半島を震源にM7.6の地震が発生

地震直前16:06の震度5強の地震を含め、2日0時までの震度5弱以上の地震は9回発生

地震の強さは阪神淡路大震災、熊本地震の約2.8倍
被害は数倍と言われている。

cf.)阪神淡路大震災

1995(平成7)年 1月17日 5:46 M7.3

東日本大震災

2011(平成23)年3月11日14:46 M9.0

熊本地震

2016(平成28)年4月14日21:26 M6.3

4月16日 1:25 M7.3

石川県の地震後の状況



倒壊した建物＝志賀町矢蔵谷
北國新聞 2024年1月3日



珠洲市の海沿いでは津波の被害を受けた

【動画】津波の被害を受けた石川県珠洲市一帯の映像
毎日新聞 2024年1月2日珠洲市



毎日新聞 2024年1月3日

JRATの動き

日付	東京本部	石川JRAT	滋賀JRAT
1月1日	情報収集開始	情報収集開始	情報共有開始
1月3日	RRT募集開始		
1月4日	中央対策本部を立ち上げ	石川県保健医療福祉調整本部会議に参加	
1月5日	RRT派遣		派遣隊員募集(コアメンバー)
1月7日	地域JRAT代表者会議		
1月8日	地域JRAT宛依頼文発布	石川県と協定締結 費用弁済あり	
1月9日	地域JRAT代表者会議		滋賀JRAT会議、医師会へ挨拶(川上)
1月10日	施設長宛協力依頼文発布		本部へ派遣エントリー
1月12日			東京本部から派遣決定の連絡あり
1月14～19日			第1班: 森PT(本部)、佐敷ST、岡本PT、南PT、 團孝OT * 1.5次避難所
2月10日			一般会員へ派遣隊員の募集開始
3月3～7日			第2班: 平田Dr、南PT、服部PT、高木PT * 輪島市
3月13～17日			第3班: 川上Dr、森(智)PT、森(美)PT、北川PT、 坂野PT、野邑PT * 珠洲市
4月30日	JRAT撤退宣言		



第1班

第2班

第3班

JRAT活動の注意事項

現地支援スタッフの方へ

〈ご挨拶〉

この度は、能登のために通々の支援を賜りありがとうございます。輪島市、珠洲市を中心として、混乱が続く、被害の全貌も明らかにはなっておりません。そのような中での支援ですので、現地のニーズに沿った支援となるよう、被災地の負担とならないように、気を付けて行動してください。

以下、派遣にあたっての注意事項を説明させていただきます。気を付けていらしてください。

本注意事項は、派遣日に各自で持参していただきますようお願いいたします。

JRAT 中央対策本部

注意事項

- 1 JRAT の活動や被災者の情報について「SNS」などのインターネット媒体で不適切な発信をしない。個人情報発信しない。自身が所属する医療機関や組織の宣伝活動をして下さい。
- 2 JRAT 石川災害対策本部の指示に従って活動してください。単独の活動は禁止です。
- 3 JMAT との強固な連携のもとでの活動、かつ、他の災害支援団体との共同活動であることに留意して、JRAT ありきの活動にならないことを意識して下さい。
- 4 被災地では全ての方がリハビリテーションを受けたいと思っているわけではありません。災害リハビリテーションは医療機関で行うリハビリテーションとは全く異なることを意識して支援してください。まずはコミュニケーションをとり、ニーズの情報収集をして下さい。
- 5 移動手段については、自動車燃料まで含めて自己完結をお願いします。
- 6 宿泊先は、個人で確保してください。
- 7 レンタカーを利用される方は、万が一のことがあった時のために、すべてを補償する保険に入るようにしてください。

- 8 発熱等の体調不良の場合は直前であってもお取りやめください。出発前には必ず体調確認をしてください。

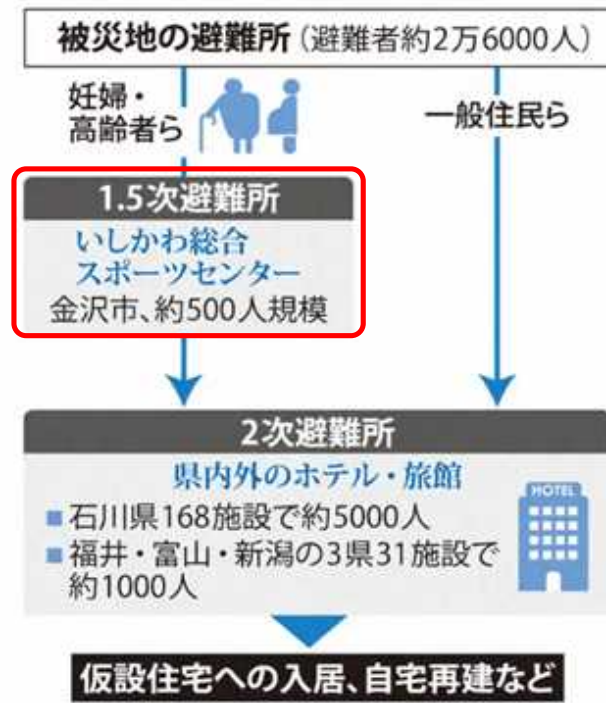
8 持参品（例）

- ・インターネット環境のあるパソコン
 - ・石川県の地図
 - ・現地で3日以上活動、および宿泊ができる準備
 - ・筆記用具
 - ・手指用消毒薬、マスクなど感染対策用具
 - ・動きやすい服と脱ぎやすく安全な靴、長靴、防寒防水性のある靴、防寒靴下
 - ・寝袋、防寒用衣類、防寒グッズ
 - ・携帯トイレ
 - ・時計
 - ・タオル、バスタオルなど
 - ・ティッシュペーパー
 - ・体温計
 - ・携帯ラジオ
 - ・工具セット（装具、車いす、自助具が直せるレベル）
 - ・メジャー（下肢の周径を測れます）
 - ・ゴミ袋（数枚程度）
- など、他に必要と思うものは、各自、準備してください。

被災地からの避難の流れ

石川県が想定する被災地からの避難の流れ

※9日時点。石川県や観光庁の発表に基づく



毎日新聞 2024年1月10日



いしかわ総合スポーツセンター



金沢「1.5次避難所」新たに開設 高齢者などの一時受け入れ先に

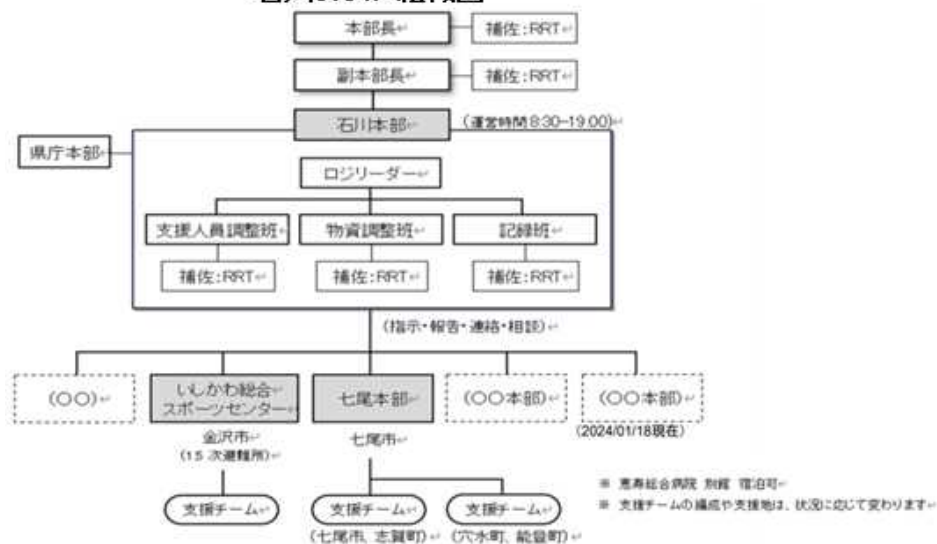
2024年1月13日 19時42分

* 1.5次避難所: 2次避難所が決まるまでの一時的待機避難所

石川県保健医療福祉調整本部 組織図



石川JRAT 組織図



石川JRAT本部

1/5～1/13 金沢医科大学リハビリテーションセンター

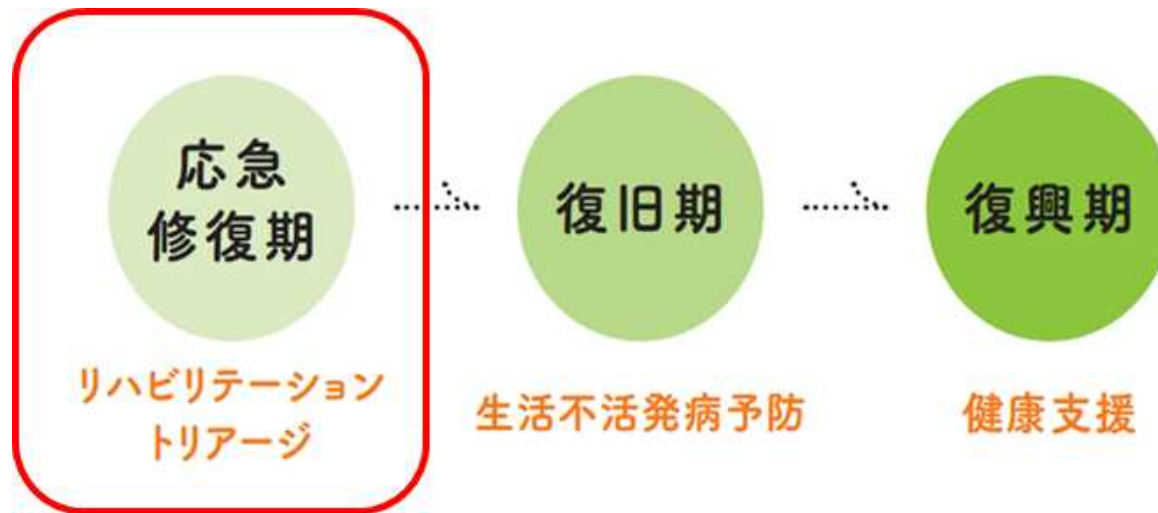
1/14～ 石川県リハビリテーションセンター



第1班

1.5次避難所

2024年1月14日～19日
発災2週目



1日の活動の流れ(1.5次避難所)

8:30 本部集合・打ち合わせ
(写真1)

9:00 スポセン着
スポセンロジから説明
(写真2)

9:20 活動開始

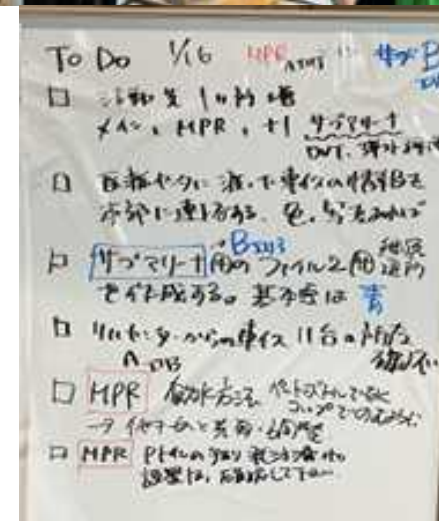
16:00 本部へ戻る
活動報告書作成

17:00 終了

写真1



写真2



1.5次避難所の区分け

メイン:1/8～

- ADL自立の方
- 250テント×2つの段ボールベッド
- 依頼のあった方に介入



サブ:1/16～

- 要介護2までの施設入所の方
- 居室に2つの段ボール／低床ベッド
- 70床(1/15)→90床(1/18)→120床
- 原則、全員トライアージ



マルチ:1/13～

- 要介護3以上の方
- 40床
- 原則、全員トライアージ



- * 避難者は昼夜問わず半島からバスで到着
- * 倒壊家屋から這い出て避難されているため、荷物はバッグ1つ程度
- * 服・靴・義歯・補聴器・福祉用具・お薬手帳等なし

介入の流れ／リハビリテーショントライアージ

支援チーム毎の本部がある。
本部が窓口

- 各支援チームから本部に依頼
- ↓
- 本部から活動部隊へ連絡
- ↓
- 対象者のトライアージ、シートの作成
* 対象者毎のシートはJRAT内で保管・共有
- ↓
- トライアージ結果を本部へ報告
- ↓
- 本部から依頼元のチームへ連絡

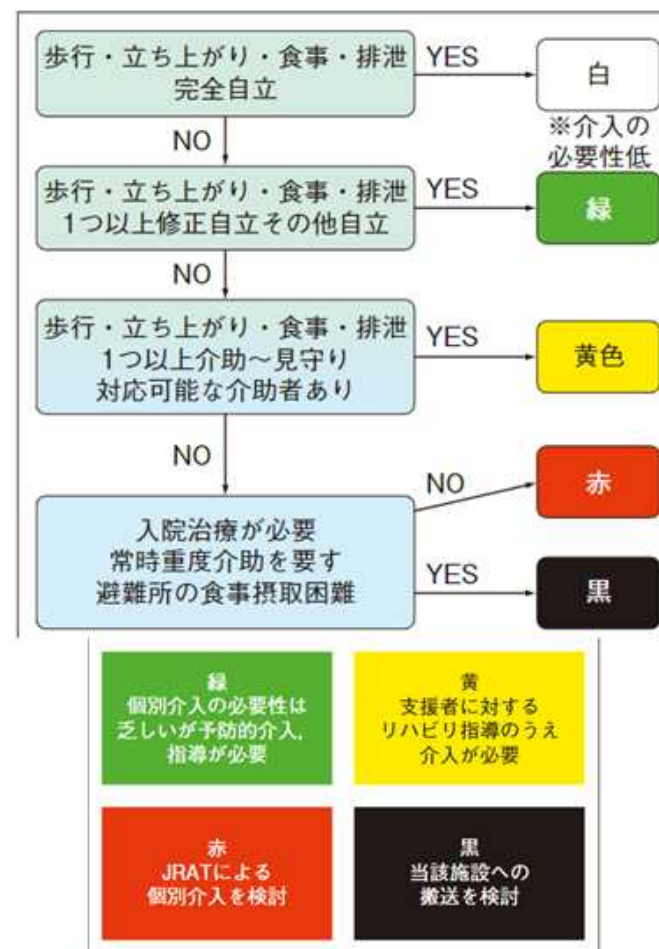


図 V-6 災害時におけるリハトライアージに応じた
対応案

1.5次避難所での実際の活動



活動はDr,PT,OT,STでの**チーム**で行う。
一人では行わない！！

- 新規避難者のリハビリアージ
- 前日の継続避難者への声掛け、確認
- 歩行補助具、車いす等の手配、動作評価・指導
- 手すりの設置、起居動作評価・指導
- 段ボールベッドの調整
- テント入り口の段差解消
- 摂食嚥下障害のチェック、自主トレ指導
- 難聴者のコミュニケーション方法の確認 等



生活不活発病予防の運動指導

- 11:00ラジオ体操
- 14:00散歩

福祉用具の管理



福祉用具の管理

- ・レンタル業者ごとにナンバーリング
- ・毎日、数の確認
- ＊本来、福祉用具は地域のCMに準備してもらうが、1.5次避難所内ではJRATが手配



環境の評価

- ・車椅子→トイレの移乗手順評価
- ・ホータブルトイレの設置場所の調整
- ・居室入り口の段差やカーテンの長さ等で引っ掛かり転倒する
- ・衛生面で気づいた点を管理者に報告

嚥下食：栄養士会（JDA-DAT）が提供

市販品で安全に食べられる食形態の提供

摂食嚥下評価の依頼：1日数件

- 評価後、本人・家族に指導
- とろみ剤の手配
- ST間での情報共有

ST間での統一事項の作成：1月15日

- 安全に生活することが第一
- 原則、食上げは行わない
- 嚥下食は施設で食べていたものよりも一段階落とし
た形態へ
- とろみ濃度は一種類のみ

本部への提案：1月16日

- 昼食時にSTが集まりラウンド評価を行えないか



ゼリー食 コード1j



ペースト食 コード2



ソフト食 コード3



移行食 コード4



常食



とろみ茶



ゼリー飲料

ミールラウンド

1/8 1.5次避難所開設

栄養士会と環境と食事提供について情報共有

※この時点ではJRATのチームの活動内で
食事の評価のみ

1/15 ST間の統一事項作成

1/16 ミールラウンドの提案

1/19 「ミールラウンド評価票 試案1」

1/20 ミールラウンド開始

※医師と相談しながらSTがフリーで
食事評価を行う

2/13 「ミールラウンド評価票 試案2」

4/10 ミールラウンド終了

ミールラウンド評価票

避難所評価票

■評価日	西暦 年 月 日 ()	■評価者	氏名: 西宮: 西宮JURAT
■避難場所	シメインアリーナ テント番号:		
■評価対象	3階後方ステーション	□マムネ	□99番 避難番号:
■家族数	世帯: (お父さん)	□男	□女
■家族の状況	●家族構成 □家族 □コード3 □コード2 □コード1 ●水分 □とろみなし □とろみあり ●姿勢 □座位 □60度 □45度 □30度 ●食感 □あり □なし ●咀嚼力 □7割以上 □7割~5割 □5割~3割 □3割以下 ●口腔内 □唾液分泌なし □唾液分泌あり 嚥下あり □嚥下分泌あり 嚥下なし ●嚥下状態 □良好 □不調		
■評価	満席	評価	コメント
立ち回り	□良好 □不調		
立ち回り	□良好 □不調		
利用・食生活	□良好 □不調		
立ち回り	□良好 □不調		
満席	□良好 □不調		
■満足している食事メニュー	●家族構成 □家族 □コード4 □コード3 □コード2-2 □コード2-1 □コード1 ●水分 □標準 □濃いとろみ □中固のとろみ □薄いとろみ ●姿勢 □座位 □60度 □45度 □30度 ●食感 □あり □なし		
■記入の必要	良	中	悪
※記入の際は、中・悪・不調に該当する項目は必ず記入してください。			
■医師評価	●家族構成 □家族 □コード3 □コード2 □コード1 ●水分 □とろみなし □とろみあり ●姿勢 □座位 □60度 □45度 □30度 ●食感 □あり □なし		
■記入の必要	良	中	悪



石川県言語聴覚士会徳田会長から提供資料を一部改変

第2班 輪島市

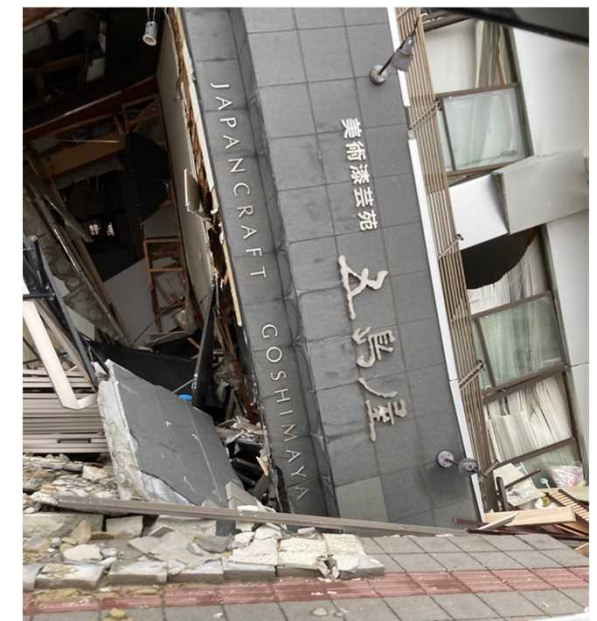
2024年3月3日～7日
発災9週目



輪島市調整本部(輪島市役所)



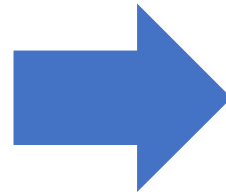
輪島市の街並み



活動内容

- 避難所の環境整備
- 輪島市での避難所支援活動は、市立輪島病院リハ科と相談・調整を行い、市立輪島病院へすべて引き継いだ
- 輪島市でのJRAT活動は撤収し、その旨、各避難所や関係各所への連絡を行った
- 状況としては、輪島市でのJRATの役割は終了し、地域リハへの移行が行われる時期に差し掛かった

避難所巡回



避難所の出入り口の
転倒事例あり

立ちアップ・手すりの
選定と動作確認



避難所巡回

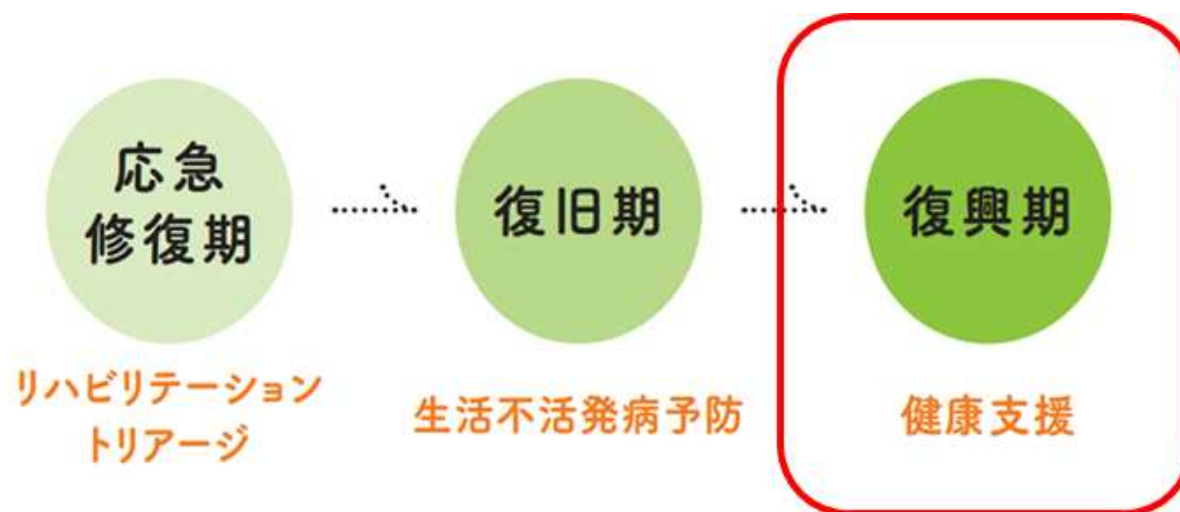


第2班メンバー



第3班 珠洲市

2024年3月13日～17日
発災10週目



珠洲市調整本部

(珠洲市市民ふれあいの里健康増進センター)



珠洲市の街並み



活動内容

- 避難所の段ボールベッドの劣化確認
- 新たな段ボールベッドの設置
- 電源コードを養生テープで保護
→引っかかっての転倒予防
- 屋外仮設トイレのステップのすべり止め確認
- 保健師ラウンドからの対象者介入案件
- シルバーリハビリ体操が軌道に乗り始めている
- 実施状況の確認、実施できない人のピックアップ等

避難所巡回

避難所の様子



引っ掛かり防止対策



避難所巡回

段ボールベッドの劣化確認



段ボールベッドの設置



避難所巡回

屋外仮設トイレのステップのすべり止め確認



宿泊先：珠洲市総合病院

リハビリテーション室で自給自足、就寝



自衛隊風呂



他府県のJRAT隊員とも活動しました



今日話すこと

1. JRATとは
2. 滋賀JRATについて
3. 能登半島地震での避難所支援活動
4. 支援活動から見てきた課題

支援で見えてきた課題

1.5次避難所

①避難者の**情報の共有**が不十分

- それぞれの団体の情報が1つにまとまっていない(特にメイン(ADL自立者))
- サブ(要介護2)、マルチ(要介護3)は部屋前に情報共有シートあり
- 翌日、活動再開時に既に2次避難所に移動している

②福祉用具の管理

- 2次避難所に持って行っているケースがあった

→**避難者ごとの情報共有シート**が必要

③嚥下障害者への対応

- 嚥下食ととろみ剤の手配、選定の必要性
- 施設からの介助情報が少ない

→**平時から栄養士会と調整・連携**しておくことが重要
施設からもらう情報の整理: 必要な情報は何か？

支援で見えてきた課題

現地の避難所

- 地域の特性を加味した活動が行えていないことがある
 - 地域セラピストとの関係性
 - JRAT隊員と地域セラピストとの軋轢
 - 自分たち（地域）の了解なしに介入していると誤解されがち
 - 地域セラピストに都度連絡・相談する
 - 最終的な主体は地域セラピスト
- JRAT同士の引継ぎの大切さ

その他

- 所属先の理解：派遣許可が下りにくい
- 県との協定の締結が必要（現在進行中）

ご清聴ありがとうございました

